

経営比較分析表（令和元年度決算）

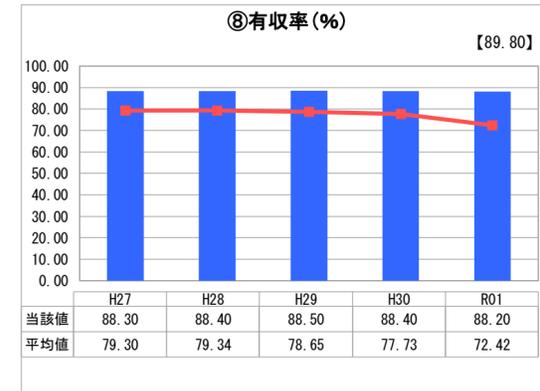
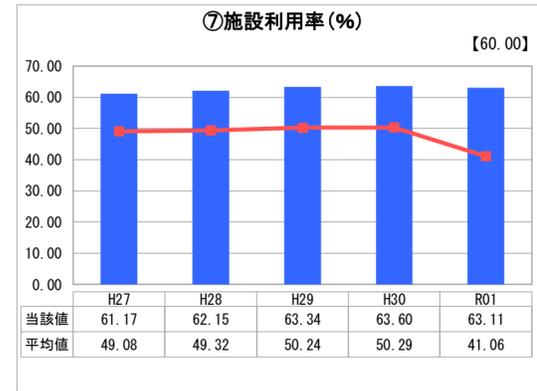
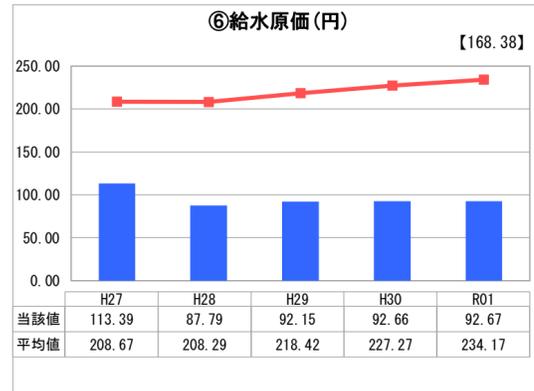
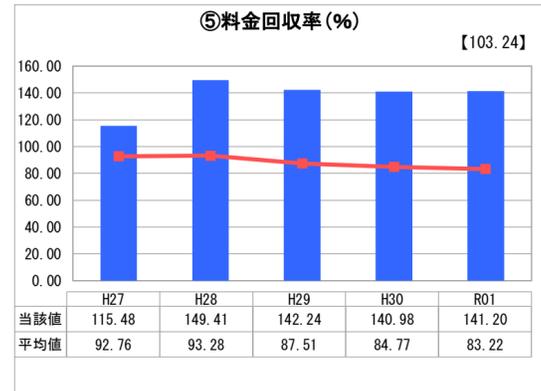
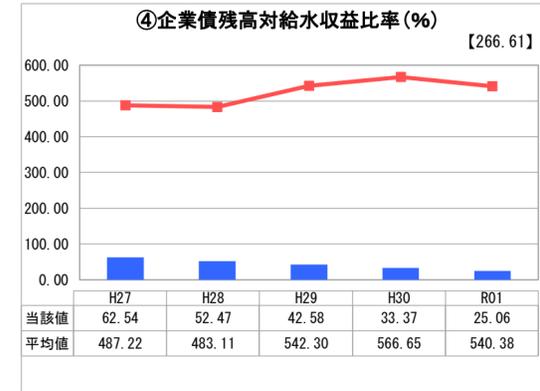
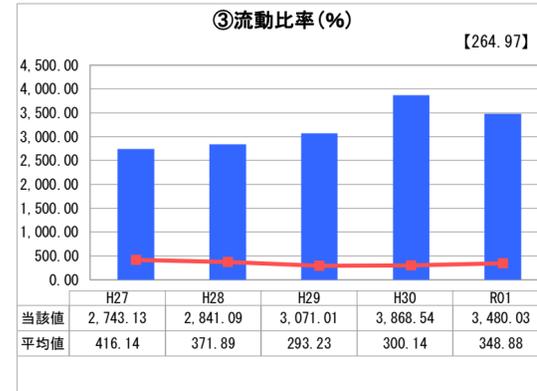
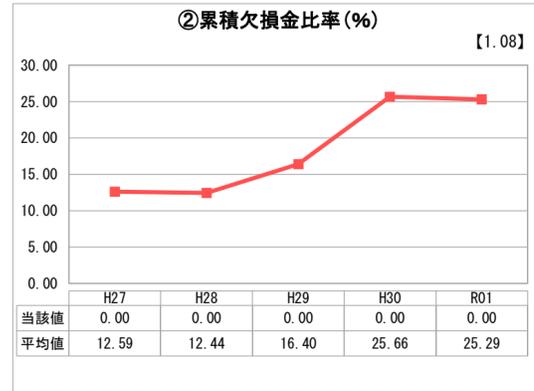
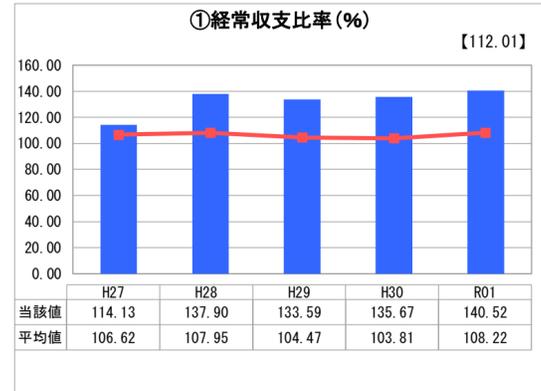
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	96.79	35.31	2,612	

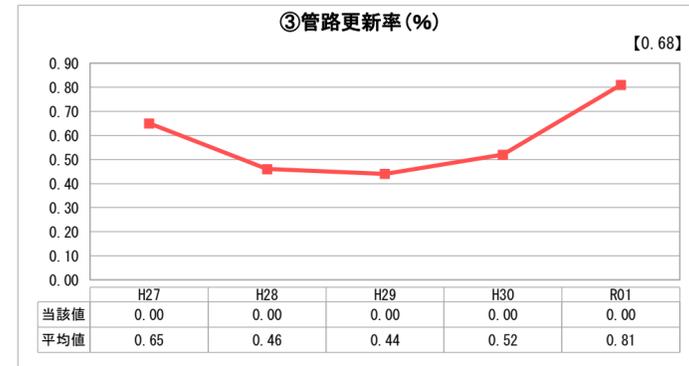
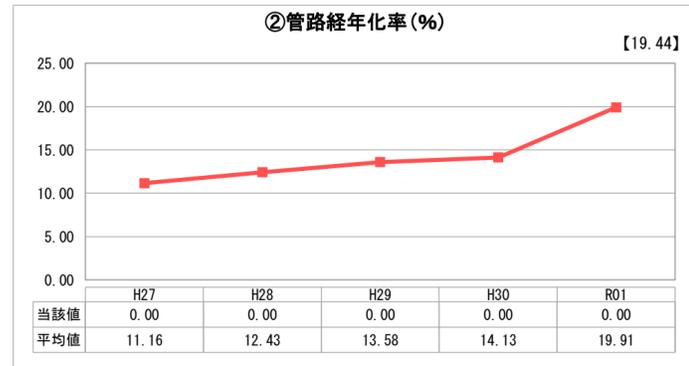
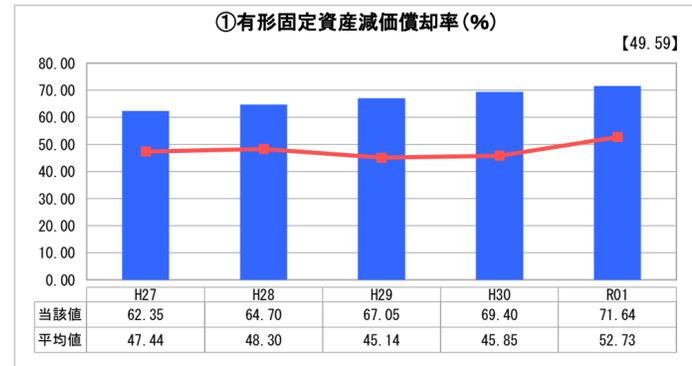
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,089	144.21	97.70
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,940	4.02	1,228.86

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、近年、企業の給水収益が増加したことで上昇している。令和元年度は、給水収益が増加したことが上昇する主な要因となった。

流動比率については、令和元年度で未払金の増加により減少することになったが、現状では、類似団体に比べ高い数値で推移している。

企業債償還額対給水収益比率については、近年、企業債償還額が減少傾向にある。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることがあげられる。

料金回収率は、平成28年度から高い数値で推移している。その要因としては、企業の給水収益が増加したことで、供給単価が減少したことがあげられる。

給水原価については、平成28年度に減少したが、平成29年度は、経常費用の委託料が増加したことで上昇する要因となった。平成30年度からは、横ばい傾向にある。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。

施設利用率については、企業への安定した給水により横ばいで推移している。

有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移している。類似団体より高い水準で推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、上昇傾向で推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。保有資産の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

全体総括

経営の健全化に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管路等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。